

e-dream-s 通信

No. 96 発行：2009年2月8日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

CamTESOL カンファレンスを目前に、準備状況などをお伝えします。山田理事からは、オバマ大統領誕生の様子を伝えるサンフランシスコ便りも届いています。どうぞお楽しみください。

目次

- | | | |
|---|------|------|
| 1. プノンペンに“サクラ・サク” | 中川房代 | p. 2 |
| 2. ヒマな教師 | 辻 荘一 | p. 3 |
| 3. Power をこの手に：道具としての PC 考 | 井川好二 | p. 4 |
| 4. たまには靴を履き替えて：二度目の CamTESOL カンファレンスツアー | 塚本美紀 | p. 8 |
| 5. <サンフランシスコ便り 16 号>オバマ大統領誕生 | 山田昌子 | p.10 |



CamTESOL2008 開会式 (2008.2.23 道面和枝撮影)

プノンペンに“サクラ・サク”

中川 房代

2月。暦の上で春になったとはいえ、まだ寒く、私が担任する中3の生徒達にとっては今は受験シーズン真っ只中。今週火曜日には私立高校の入学試験があるし、最終的に全員の卒業後の進路が決定するのは3月下旬、まだまだ“サクラ”は遠い。



トラベックプレイの木

昨年2月にカンボジアに行った時、首都プノンペンで（アンコール遺跡群のあるシェムリ・アップでは見かけなかった）、桜に似た薄ピンク色の花をつけた街路樹が目にとまった。満開のその花は桜よりも少し大きく、気温30度のカンボジアのスカイブルーの空によく映えた。ドライバーに名前を聞いたがよくわからず、帰国後名前を調べたら「トラベック・プレイ (Jungle Guava) の木」で、カンボジアではプノンペンの街路樹に使われているらしいことがわかった。今年も、咲いて、CamTESOL参加者を迎える準備をしてくれているだろうか？

いよいよCamTESOLまで2週間。1月末に、井川組、辻組の参加者が集まって準備のための会を持った。プレゼンテーションソフトで作成したスライドの順や、文言、持ち物や発表の段取りなどを確認する作業を行った。それぞれ、順調に進んでいるようである。8日午後には、ACROSS大阪支部の会員に協力してもらっての辻組のリハーサルも予定されている。

奨学金プロジェクトは、プロジェクトチームが1月に発足し、2月のカンボジア訪問期間中に、ソコム先生やその他関係者と会って話を進めることができるよう、現在準備中である。当初、英語を学びたい生徒達への支援を対象に考えていたが、英語を勉強する環境が十分でない地域の生徒達に英語を教える大学生のボランティアグループへの支援、英語教師を育成するための支援についても、今後可能性を検討していけたらとも考えている。

厚いコートが必要な冬の日本の空港から、Tシャツで十分な夏のカンボジアの空港に降り立つ。参加者の皆さん、気温差や水の違いなど、健康に十分留意してくださいね。CamTESOLでの発表を始め、参加者との交流、ソコム先生を始め、コンタクトパースンの方々との懇談など盛り沢山ですが、“カンボジア”をしっかりと味わってきてください。カンボジア滞在中のブログや帰国後の報告を楽しみにしています。

ヒマな教師

辻 莊一

塾やと学校との一番大きな違いはおそらくその目的でしょう。塾・予備校は、成績向上や入学試験合格など明確な達成目標がありその為のサービスを提供するために存在します。サービスですから、それは質が高ければ高いほど、また安価であればあるほど良いということになります。一方学校の目標は学力向上や進路実現という意味での入学試験対策なども含む場合もありますが、大きくは次世代の望ましい国民を作ることであり、また個人の人的成長の場を提供することでもあります。

教える立場である教師から考えれば、担当教科をできるだけ分かり易く教える、つまり英語ならば生徒ができるだけ質の高い英語をできるだけたくさん吸収するように授業をするという部分は塾と学校に共通しますが、塾ではそれがほとんど全てであるのに対して、学校では授業は中心的な業務ではあるものの、それが大部分というわけではありません。当然理想とする教師像も塾と学校では違っていて、塾では基本的に「教え方が良い教師＝良い教師」であるのに対して、学校では「教え方が良い教師≠良い教師」つまり、良い教師は教え方が良いが、教え方が良いだけでは良い教師ではないということになります。

塾で良い教師になる為にはひたすら教え方を研究すれば言い訳ですが、学校で良い教師になるための道は、一本道ではありません。「学校における良い教師」というのはなかなか定義が難しいのですが、一ついえるのは良い教師になる、あるいは良い教師であり続けるには、その教師が学び続け、成長し続けなければならないということです。そしてそれぞれの教師の成長の仕方は違いますから、1つのカリキュラムに従って学ばせることもできませんから、教師にある程度時間と余裕を与えて、成長を促すしか方法がありません。教師にはヒマが必要なのです。

最近、学校や教師のパフォーマンスを数字、つまり生徒の成績で計ろうとする傾向が強まっていますが、生徒の成績は教師の善し悪しを計る1つの指標ではありますが、それが全てではないということを、しっかり持っていなければなりません。教師が良い仕事をしているかを生徒の成績だけで計ろうとするのは、学校を塾化していることに他なりません。

教師は多忙になっていますが、ある程度は仕方がないにしても、トップダウンの指示に従うだけで教師が忙殺されて、全く余裕がなくなるような状態だけにはしてはならないでしょう。例えば e-dream-s のような教師が成長できる NPO 活動にも参加できないぐらいに、多忙化しているとすれば、それは憂うべき状態だといえるでしょう。私たちにはもっとヒマな教師が必要なのであります。

Power をこの手に： 道具としての PC 考

井川 好二



「菱足鋏」筑前福岡

コンピュータは身近な道具の一つ。毎日付き合っている。雨の日も風の日も、1日6時間以上、液晶画面を見つめ、キーボードに指を走らせながら暮らしている。機種は変わってもパソコンとは、これからも、ずっと長く付き合っていくことになるのだろう。

ワープロ・ソフトで教材や試験を作ったり、表計算ソフトを使って採点結果を集計したり、プレゼンテーション・ソフトで講義や学会での発表用資料を準備したり。コンピュータ抜き的人生は考えられない。今も眠い眼をこすりこすり、パソコンの液晶画面を見つめて、この原稿を書いている。

「センセ、今日のお鞆・・・」

「ごめん、えらい重たいやろ」

「お箸より重たいもん、お持ちにならへんセンセが・・・」

「パソコンや。肩こってしゃあない」

「お仕事ですか？」

「いや、修理してもろてたんを、取りにいったん。落とさんように、ちゃんと預かっついてや」

「へえ、センセの大事なお道具、しっかり番させていただきます」

馴染みの割烹の女将に、パソコン入りの鞆を託して、カウンターへ陣取ると、きめ細かい泡のビールが待ち遠しい。

日頃愛用しているラップトップ型のコンピュータ、Apple Powerbook² G4 の、ハードディスクの容量に余裕がなく

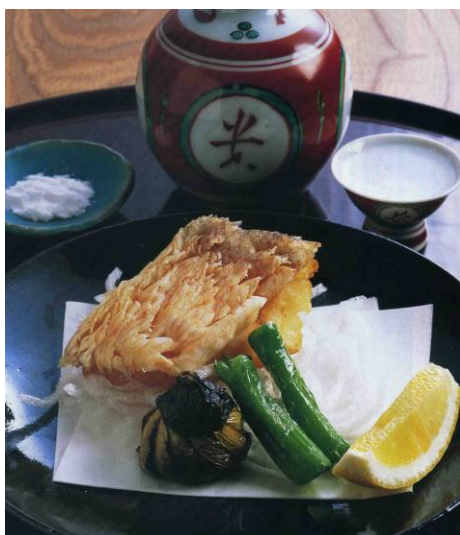
¹柳宗悦 (2000) 「手仕事の日本」 東京：小学館 p. 179

ほとんど困った。5年前に購入し今でも結構気に入って使っているのだが、もともと80GB³しかなくて、最近空き容量が、どんどん減って5GB に落ち込んでいた。

いろいろ増えてきたデジカメで撮った画像や映像、iPod 用の音楽とかを保存するのに、もうこれ以上スペースがなるのは、秒読み段階。デジタル家電は、この5年で長足の進歩を遂げたが、私のコンピュータの記憶容量がその進歩の早さに追い付いていない。

内蔵のハードディスクが小さい分を、外付けで補おうと、250GB を2台つないでいるのだが、使い勝手が悪く、やはり内蔵を少し大きくしようと、修理を頼み、80GB を250GB と入れ替え、序でにメモリーも少し増設した。やがては、パソコン本体の買い替えをしないとイケないのだが、当面のコンピュータを使った仕事も生活も、何とか凌げる状態になって、まずは重畳。

「ぐじ⁴の若狭揚げどす」と運ばれて来たのは、甘鯛の唐揚げ。「そろそろお酒どすな」と、越後の酒「八海山」を、丸谷焼⁵のとっくりに、入れて持ってくる。



ぐじの若狭揚げ⁶

「センスのアップルはん、具合悪おしたん？」

² Macintosh Power・Book 【商標】 マッキントッシュ パワーブック 《Apple Computer 社製のパーソナルコンピュータ Macintosh のノートブック型モデル》.[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]

³ ギガバイト 【gigabyte】 情報量の単位。GB と表記。1000 メガバイトを指す場合と 1024 メガバイトを指す場合とがある。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

⁴ あま - だい【甘▼鯛】本州中部以南のやや深い海に分布するアマダイ科の海水魚の総称。体は細長く、前頭部が隆起する。アカアマダイ・キアマダイ・シロアマダイの三種があり、いずれも食用。グジ。◇タイ類とは別種。[明鏡国語辞典]

⁵ 丸谷焼【くたにやき】石川県南部の能美郡・小松市・加賀市を中心に作られる色絵磁器。17世紀半ば大聖寺藩主前田利治の奨励により加賀丸谷村に開窯したことからはじまると伝える。初期の作を古丸谷と呼び、その一部は有田で作られたとする説もある。19世紀初め吉田屋伝右衛門が古丸谷青手の法を再興、天保頃、飯田屋八郎右衛門らが赤絵・金襷手(きんらんて)の技法を開発した。明治半ば、日本の輸出陶磁器の首位に立ち、ジャパネクタニの名で世界に知られた。[岩波日本史辞典]

⁶ 『百楽』2006年7月号 p.27

「まあ、そやな。正確には、故障、云うより・・・」

「けど、お困りやったでしょう。パソコンなかったら、仕事にならへんて、いつも云うたはりますもんね、センセ」

「そや、コンピュータなしでは、字書かれへん、計算できへん、考え纏まらへん、の三重苦」

「そら大変」

それだけではない。女将には云わないが、最近さらに深刻だと思っているのは、記憶力の衰え。自分の脳が記憶できないことを、コンピュータのハードディスクの記憶力に頼っている。コンピュータが、いわば、私の外付けハードディスクの役割を果たしているのだ。

今回、PowerBook の内蔵ハードディスク容量を増やして、記憶のキャパシティを拡大し、メモリーも増設してマシンの処理能力を多少ともアップさせ、最近能力の低下がますます自覚される私自身の記憶装置を、しっかりサポートしてもらおうというつもりである。

アメリカ留学時代に学んだ図書館学で、習ったことの一つ。図書館運営最大の関心事は、書籍検索。利用者が必要とする書籍の在処を、いかに迅速突き止め、取り出すことができるシステムを構築するか。たくさんの蔵書を抱える大図書館になればなるほど、大切な問題。巨大な図書館ビルの中に、たとえ何100万冊の書籍が、収納されていても、その中から自分が読みたい1冊の書物を、素早く見つけ出すことが出来なければ、意味がない。

こうした書籍検索を、英語では“Retrieval⁷”と云う。その図書館学の授業で、この単語にであって以来、Retrieval には、濟州島⁸の海女のように、書物の海に潜って、必要な書物を探し出し、キラキラ光る水面に浮かび上がってくるイメージがつきまとう。

大正八年(1919年)生まれの作家、水上勉⁹は、かなり高齢になってからコンピュータを始めたと、いろんなところで書いている。やや自慢気にも聞こえるが、伝えたいと云う意思が堅固で、新しい道具も次々と使いこなし、高齢や障害をものともしない姿勢には、素直に感嘆する。無論、料理上手な水上の器用さと云うこともある。

八十の手習いで、パソコンを始めた。

パソコンを駆使するという電腦生活に入ったきっかけは、七十歳のときの心筋梗塞だ。心臓の三分の二が壊死してしまった結果、思いもよらないところへ影響が出た。万年筆の筆圧が弱くなり、升目を文字で埋めるのに苦勞するようになったのだ。そこで、まずワープロに挑戦し、それから徐々に電腦化を進めて、パソコンに

⁷ 取り返し、回復(recovery), 復旧, 挽(ばん)回; 埋め合せ, 償い; 修繕, 訂正, 救出, 回復の可能性 // beyond [past] ~ 修復不可能で/baggage ~ 手荷物受け取り.

[ジーニアス英和大辞典 株式会社大修館書店]

⁸ チェジュ - ド【濟州島】(Cheju-do)朝鮮半島の南西海上にある大火山島。面積 1840 平方キロメートル。古くは耽羅たんら国が成立していたが、高麗により併合。1948年、南朝鮮単独選挙に反対する武装蜂起(四 - 三蜂起)の舞台となる。付近海域はアジ・サバの好漁場。観光地として有名。周辺の島嶼と共に濟州道をなす。[株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

⁹ みずかみ - つとむ【水上勉】小説家。福井県生れ。立命館大中退。社会派ミステリー作家として脚光をあげたが、「雁の寺」以降、独自の風土観や宿命観を生かして精力的に活動。作「飢餓海峡」「越前竹人形」など。(1919~2004) [株式会社岩波書店 広辞苑第六版]

ゆきついた。(水上勉, 2003, pp. 160-161)¹⁰

水上は、コンピュータやインターネットを使った高齢者、障害者の学習を推進したり、地域振興にもネットワークの活用を提唱したり、先駆的な役割を果たした。PowerBook を愛用していたというのも、親しみを感じてしまう。PowerBook と云えば、村上春樹もユーザーであった。

2004年に85歳で亡くなっているが、その直前まで執筆していたようで、その書くこと、生きることへの意欲を伝えている。

自分は死なない、不死身である、と信じたい。自分にだけは死も遅れてやってくると思いたい。しかし、死はいつか必ずやってくるもの。避けられない死を前にして、生きようという気を持つことである。その意欲によって華やぐのである。老人力が華やぐのである。老人文化力というのか、欲というか、生命力といおうか。それはまた、気を認識することでもある。(水上、2003、pp. 210-211)

水上の云う「老人文化力」を持ちたいものだが、その意欲を支える基礎に、道具としてのコンピュータがあることを、しっかり認識すべきだろう。

“fingertip”と云う英語は、文字通り「指先」と云う意味で、キーボードはその fingertip で操作する。しかし、“at one's fingertips”と熟語になると話が広がって、“(esp. of information) readily available; accessible” (OAD) と云う意味。さらに、“to have [keep]...at one's fingertips”と云うと、「直ちに利用できる、すぐ手に入れることができる; 精通している、楽々と処理できる」[株式会社研究社 リーダーズ+プラス V2]となる。

以前に Apple Computer 社が使っていた PowerBook の英語での広告コピーに、“**Power at your fingertip**”とあったのは、一読で共感できる宣伝文句で、いつまでも心に残るコマーシャルの一つである。今思えば、Power は「老人文化力」とも読める。

「道具はものではない。自分の心の尖端である」と云うある職人の言葉を、日本経済新聞の「春秋¹¹」が記している。思えば、「英語も道具」、「パソコンも道具」。そしてどちらも、自分の心の一部なのかもしれない。どちらにしても、その道具のお世話になって、ますますパワーを発揮したい今日この頃である。(February 7, 2009)



「壺」豊後小鹿田¹²

¹⁰ 水上勉(2003)「植木鉢の土」東京：小学館。

¹¹ 2009年1月12日付 日本経済新聞 朝刊 『春秋： 道具は物でない。自分の心の尖端である』

¹² 柳宗悦(2000)「手仕事の日本」東京：小学館 p. 172

たまには靴を履き替えて

: 二度目の CamTESOL カンファレンスツアー

塚本美紀

去年の夏、表参道で元パリコレモデルに「美しい歩き方」を習った。「歩く場面を想定して、靴を履いてきてください。」と言うので、私はその秋の新作の、限りなく肌色に近いベージュのエナメルハイヒールを履いて出かけた。デザイン性を重視したその靴は、足の指の付け根が少し見えるくらい浅く、そしてヒールは8センチ以上はある。そのため羽田空港を出る前から、足が痛くなってしまった。重い荷物を抱え、ふらふらした足取りで地下鉄の駅を目指して歩いていると、「こんな靴を履いていたのでは、私の行ける範囲は限られてしまう。行きたい場所にぐんぐん進んでいくことができない！」という考えが頭に浮かび、急に悲しくなってしまった。私が歩いていく道のりと、私の人生の道のりは、必ずしも同じものではないけれど、ハイヒールを履くことで、自分の人生が制限されてしまうような気持ちになってしまった。

教室では、元パリコレモデルが高くて細いヒールの黒い靴を履いて、美しい歩き方を見せてくれた。彼女の筋張った美しい足をさらに美しく見せるような、スクエアにカットされた華奢な靴。「そんな靴、ずっと履いてて平気ですか。」思わず私が尋ねると、「あら、ずっとなんて履かないわ。勝負靴は、会場に着く直前に履き替えるのよ。」と彼女は美しい微笑をゆっくり広げながら言った。

これまでも、靴を履き替えたりしなかったわけではない。けれども、それはちょっと反則みたいな気がして、後ろめたい気分でも履き替えていた。だから、ハイヒールを履くならずっと履いておくもの、かっこつけたいなら多少の不快感も我慢しなければならない、途中で履き替えて、美しさも快適さも両方手に入れるのは、後ろめたいことだと思っていた。それが、どこにも隙のないくらい美しい元パリコレモデルも靴を履きえるというのを聞いて、お墨付きをもらったみたいで、一気に気持ちが楽になった。

考えてみたら、私たちはいつでも100パーセントでいられるわけではない。集中して力の限界を出し尽くす時があれば、のんびりとリラックスするときもある。緩急つけることで、いざという時に力を発揮できるのだろう。不惑をとおに過ぎて、やっとそんなことに気付いた。今年の CamTESOL で発表直前に具合が悪くなってしまったのは、リラックスするのも忘れて、日本を発つ前から、あれもこれもと頭も体もめまぐるしく動いていたからに違いない。もちろんそのお陰でできたこともあるが、「キリキリ舞」はいつまでも続かない。自分も疲れるが、周囲も迷惑に違いない。二回目の今回は、少し余裕を持って臨みたいと思う。

これから私たちはカンボジアで息の長い活動をするようになる。持続可能なプロジェクトを作っていくには、自分自身が「持続可能」でなければならない。面白いことをするためには、それ以外のたくさんのことも引き受けることになるのだから、強い自分になると同時に、上手なエネルギーの使い方も覚えて、これからももっと面白いことをしたいと思う。今年の CamTESOL カンファレンスツアーでは、奨

学金プロジェクトが具体的に動き出せるよう、いろいろな人に会って、いろいろな話をしたい。もちろん、のんびりすることも忘れない。去年は体調不良で叶わなかった、朝のトンレサップ川沿いの散歩もできたらしいなあと思う。

この冬、黒いレザーのウォーキングシューズを買った。パンツスーツにもよく合うので、仕事場にも履いていくし、人との待ち合わせ場所の近くにまでも履いていく。足取りが軽くなって、気分がいい。こんな靴があれば、どこかでこっそり履き替えて、ハイヒールも楽しみながら、遠くまで歩いていけそうな気持ちになる。カンボジアから戻ってきて、もう少し暖かくなったら、どこまでも歩いていけそうな春の靴を買いに行こう。

オバマ大統領誕生

理事 山田昌子

1月25日(日)。先週20日(火)にオバマ氏が大統領に就任し、その就任式は大変話題になりましたが、テレビのニュースではその就任の話題がまだ続いています。私は不勉強で、就任式を終えたら大統領の仕事が始まるくらいにしか思っていなかったのですが、ほぼ3日間就任のcelebrationがありました。新聞では18日の"We Are One" concert¹³の様子が報じられ、テレビでは就任式のみならず、就任式後のランチョンや夜のパーティーの様子が放映されるなど、お祭り騒ぎでした。例年の就任イベントに加え、First LadyのMichelleさんのドレス(お嬢さんのドレスも)も関心の的。街では、オバマ氏のTシャツが売られ、先日あるお店で見た "Obama in Da House" というTシャツ¹⁴はシャレっていて、African-Americanである友人のPさんのお気に入りでした。その他オバマグッズも、沢山作られ売られています¹⁵。オバマ氏のお嬢さんの人形まで登場した¹⁶というのは、ちょっとエスカレートしすぎ?!

勿論、オバマ氏が秀でた政治家で、民衆に愛される人格者だからとか、多くの要素があつて大統領に選ばれたのでしょうが、友人のPさんは、ニュースを見る度「これはアメリカの歴史においてすごく大きなことだ」と感激しています。これまでは、いくらアメリカが夢を実現できる自由な国だと言われても、African-Americanが大統領になることはなかった、でも今年実際に大統領になったという事実は、誰でも実力があればトップにたてるという証明だということです。オバマ大統領が就任演説で述べていた「(オバマ氏の)お父さんがレストランで黒人だからと拒否された話」は、彼自身の体験でもあります。若い時、軍の仕事で南部のある街に行き、レストランで食事をしようとした時、母国を守る軍の制服を着ていたにもかかわらず、「出て行け」と言われたそうです。言葉でははっきり言いませんでしたが、屈辱感が彼の表情に表れていました。彼は、奴隷の黒人が建てたホワイトハウスに、白人ではなく黒人の大統領が住むのは、歴史上大きな事件だとも言います。また、オバマ氏の家族や親戚には、ケニアやインドネシア等様々な背景の人たちがいて¹⁷、彼はdiversityの象徴でもあるとも言います。だから、白人しか大統領になれなかった時代がなくなったのは、大きな歴史上の変化だと、彼は強調します。彼は、ニュースが好きだということもありますが、オバマ氏のニュースは必ずと言っていい位見えています。

オバマ氏の就任式は、こちらの新聞によると、全米のテレビで3名に1名は見ていた位、視聴率が高かったそうです。私が部屋を借りている大家のSさんは台湾出身で、16年程アメリカで暮らしgreen cardをとった男性ですが、やはりオバマ氏の就任演説は見逃せなかったと言います。ところが、今日、別の友人Dさん(白人男性)と話をしていると、就任演説を聞き損ねただけでなく、PさんやSさんほどの感

¹³http://www.sfgate.com/cgi-bin/article.cgi?f=/g/a/2009/01/19/we_are_one_concert.DTL&hw=inauguration&sn=001&sc=1000

¹⁴ Da House とは White House のこと。 <http://kgmb9.com/main/content/view/11471/40/>

¹⁵ <http://www.sfgate.com/cgi-bin/article.cgi?f=/c/a/2009/01/24/MNKF15FUK5.DTL>

¹⁶<http://www.sfgate.com/cgi-bin/article.cgi?f=/c/a/2009/01/25/MN6S15GOC6.DTL&hw=Obama+dolls&sn=003&sc=676>

¹⁷ オバマ氏の父はケニア出身、母の再婚相手はインドネシア出身。

激はなく、アメリカの大統領の一人くらいにしか考えていないそうです（ちなみに、PさんとDさんの年齢はそれ程かわりません）。これらの私の知り合いがアメリカの人種や民族の代表では無いし、またたまたまの結果かもしれませんが、この反応の違いが興味深かったです。

今日 asahi.com ¹⁸を見ていると興味深い記事がありました。「キング牧師が "I Have a Dream" のスピーチの中で語った夢はかなったと思うか」という、CNNが行った世論調査で、Yes と答えた人の割合は、大統領当選後、白人では46%、一方黒人では69%だった（昨年3月は白人35%、黒人34%）というから、やはり人種によってオバマ大統領の就任についての捉え方が異なるのかもしれませんが。ちなみに、人口が増加しつつある、ヒスパニックの72%が「オバマ大統領の1期目は成功する」と考え、期待を寄せているそうです。今回は焦点を当たりませんでした。ヒスパニックの捉え方も眼が離せません。

同じ記事中には「2008年の全人口の中での白人の割合は 66%だが、2050年には 46%になる」と書かれています。majorityの白人の捉え方が大きくアメリカ社会に反映してきたし、そして人口比率の変化と共に社会が変化しているとすれば、白人がminorityになるとアメリカ社会自体もっと変わっていくでしょう。また、黒人比率は14%から15%に増えるだけなのに対し、ヒスパニックは15%から倍の30%に増えるそうです（ちなみにアジア系は5%から9%へ増加）。（サンフランシスコは既に白人はminorityの街ですが、）今後、人口比率の変化と共に、人口の多くを占める白人、ヒスパニック、黒人がどのように物事を見、その人種や民族による考え方の違いが社会にどう影響するのか、そしてアメリカ社会はどのように変わっていくのか、興味深いところだと思います。

<編集後記>

CamTESOL カンファレンスはいよいよ今月 21 日、カンファレンスでの発表と奨学金プロジェクトが実り多いものになりますように。夢を形にしていくプロジェクトの報告を楽しみにしています。カンファレンスツアーに参加される皆さま、一足先に“サクラ”の咲くカンボジアへ、元気でご無事な旅になりますようお祈りいたします。（道面和枝）

¹⁸ <http://www.asahi.com/international/update/0121/TKY200901210334.html>